様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 １９ 日現在

機関番号：２６４０１
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2016～2017
課題番号：１６Ｈ０７１４０

研究課題名（和文）1型糖尿病患者のresilienceを高める教育プログラム効果の検討

研究課題名（英文）Educational program effect to increase resilience of type 1 diabetic patients

研究代表者
高樽　由美（takataru, yumi）

高知県立大学・看護学部・助教

研究者番号：３０７８３１５４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、成人発症の1型糖尿病患者を対象とした「1型糖尿病患者のresilienceを高める教育プログラム」の効果を検討することを目的とした。高知県立大学看護研究倫理審査委員会の承認の後、研究協力を依頼する施設での倫理審査承認をうけ、研究協力者を選定している。このため研究目的である「1型糖尿病患者のresilienceを高める教育プログラム」の効果検証まで至らなかった。今後は、研究協力者の選定を継続して行い、「1型糖尿病患者のresilienceを高める教育プログラム」を実施し、その効果を検討していきたい。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to assess the effects of an “Education program to increase resilience among patients with type 1 diabetes,” targeted patients with adult-onset type 1 diabetes. After obtaining approval from the nursing research ethics committee of the University of Kochi, we requested ethics reviews from the facilities with which we intended to collaborate. It took roughly one year to obtain approval from the ethics committees of the collaborating facilities, likely because the study involved patient intervention and the request for ethics review was submitted by a researcher not directly affiliated with the collaborating facilities. After obtaining approval from the ethics committees, we requested cooperation from physicians in charge at each facility, and are now at the stage of selecting research collaborators. Moving forward, we hope to continue the process of selecting research collaborators, and then will carry out the education program and assess its effects on patients.

研究分野：看護

キーワード：１型糖尿病　resilience　教育プログラム

１．研究開始当初の背景

1 型糖尿病患者は、適切なインスリン補充療法ができれば、健康な人と大きく変わらない生活を営むことができるが、内因性インスリン分泌能が枯渇しているため、定期的なインスリン注射が欠かせない。そのため、日常生活の中に食事療法、インスリン注射、自己血糖測定、低血糖の対処など糖尿病に関連した自己の生活管理行動を組み入れて生涯生活しなければならない(駒井:2007)。しかし、1 日数回インスリンを投与しても自然なインスリン分泌とは異なり、血糖コントロールが困難なことが多い。

糖尿病治療の大半は患者の自己管理に影響されるため、患者教育や指導内容が正しく提供されていないことが血糖コントロールの悪化要因と考えられており（大澤,2008)、糖尿病患者への教育は重要であると考える。小児発症の１型糖尿病患者を対象としたプログラムは報告されているが、成人発症の１型糖病患者（以下１型糖尿病患者）を対象とした教育プログラムは、女性の妊娠・出産に焦点をあてた教育プログラムのみである（田中,2012)。１型糖尿病患者は、血糖コントロールの知識・技術はもちろんのこと、病気の受け入れや、社会的役割の遂行における問題解決能力、心理面の適応能力の獲得が必要であると考える。しかし、1 型糖尿病患者は、日本人の糖尿病患者全体の約 10～15%（矢野,2010）と少なく、1 型糖尿病患者を管理、教育できる医師や医療スタッフが充分でないことから、サポートや情報が得られず、個々で血糖管理を行わなければならない生活を強いられている。また、病気に対する社会の理解不足から孤独を感じているなど、社会的問題を抱えている患者が多い（高樽,2016)。以上のような１型糖尿病患者を巡る現状を考慮し、認知行動理論を基盤とした「1 型糖尿病患者の resilience を高める教育プログラム」（以下プログラムとする）を博士後期課程において開発した。

２．研究の目的

本研究の目的は、博士後期課程で開発した成人発症の 1 型糖尿病患者を対象とした「1 型糖尿病患者の resilience を高める教育プログラム」の効果を検討することである。

３．研究の方法

（１）プログラムの実施

①高知県立大学研究倫理審査委員会の承認を得る。

②高知県と、岡山県の病院 2 施設に研究協力を依頼する。

③研究協力施設の倫理審査委員会の承認を得る。

④成人発症の１型糖尿病患者に、博士後期課程で開発した「resilience を高める教育プログラム」を実施する。

⑤研究協力者

高知県と岡山県の病院に通院している成人発症１型糖尿病患者で、以下の条件を満たす 5 名程度とする。

・1 型糖尿病の診断を受け、教育入院の経験がある、発症後１年以内の患者

・重篤な合併症がない患者

・病気の受け入れが困難な状況にあるなど、精神的な負担がない患者

・20 歳以上 70 歳以下で本研究の趣旨を理解し、研究協力の同意が得られた患者

・研究協力施設診療科の責任者を通して上記の条件を満たす患者を研究協力者として紹介していただき、申請者が文書および口頭で研究協力を依頼する。

⑥プログラムの内容

プログラムは、resilience の概念分析、1 型糖尿病患者の療養体験の先行研究の結果をもとに、対処する力、捉え直す力、回復力の 3 つを中心テーマとし、(1)病気と付き合うために知っておきたいこと（1 型糖尿病患者に

必要な知識と技術の提供）、(2)ストレスのコントロール方法、(3)療養と社会生活の両立において大切なこと、(4)身体と心のケア方法の内容で構成している。この内容を 4 回シリーズで実施する。

⑦プログラムの実施方法

研究協力者の外来受診時に、申請者が作成した患者用パンフレットを用いて、申請者がプログラムを個別に実施する。実施においては、一方的な講義形式ではなく、申請者と研究協力者の双方向の対話型で行う。研究協力者の体験や考えを語る時間を設け、申請者と共にフィードバックを行う。また各回の終了後、研究協力者に目標を立案してもらい、次回のプログラム実施時に評価を行う。1 回の所要時間は 60 分以内を予定している。

（2）プログラム効果の検討

①プログラムに参加した 1 型糖尿病患者に、質問紙調査、インタビュー調査を行い、結果を分析する。また、プログラム実施中の申請者と 1 型糖尿病患者の対話の内容を分析し、1 型糖尿病患者が立案した行動目標の達成度を評価する。

②質問紙調査：先行研究で作成した resilience、糖尿病の知識、血糖コントロール状況の項目からなる評価指標を用いて、プログラム実施前後で、研究協力者に自記式質問紙調査を行う。

③プログラム実施中の言動： ①プログラム実施中の申請者と研究協力者の対話を分析する。同意が得られた場合は、プログラム中の発言を IC レコーダーに録音し、得られなかった場合は申請者が内容を筆記記録する。

④各回のプログラム終了時に、研究協力者に次回までの行動目標を立案してもらい、その達成状況を評価する。

⑤インタビュー調査：プログラム実施後、プログラムに実施したことによる変化、プログラムの改善点について、半構成的インタビューガイドを作成し、研究協力者にインタビューを実施する。インタビューは 1 回 30 分程度で、研究協力者の同意を得て、IC レコーダーに録音する。

（3）データ分析

以下の①から③の内容の結果を総合的に分析し評価する。

①質問紙調査：プログラム実施前後で質問紙調査の結果を比較し、resilience、知識、血糖コントロールの変化を評価する。

②プログラム実施中の言動：プログラム実施中、申請者と研究協力者の対話の内容を、質的に分析する。研究協力者が立案した行動目標の達成状況について評価する。

③インタビュー調査：プログラム実施後、研究協力者のインタビューから得たデータを、質的に分析する。

（4）（2）、（3）の結果を踏まえて、プログラムを洗練化し、臨床応用できるものとする。

4．研究成果

本研究では、博士後期課程で開発した成人発症の 1 型糖尿病患者を対象とした「1 型糖尿病患者の resilience を高める教育プログラム」の効果を検討することを目的とした。高知県立大学看護研究倫理審査委員会の承認の後、研究協力を依頼する施設で倫理審査を申請した。研究協力施設外の研究者の申請であること、患者への介入研究であることから、倫理審査の承認までに約 1 年の月日を要した。倫理審査承認後、研究協力施設の担当医師に協力を得て、現在研究協力者を選定している段階である。また、研究の対象者が 1 型糖尿病を発症後 1 年以内であることから、研究協力者の選定が難しく患者選定までにいたらなかった。以上のことから、研究目的である「1 型糖尿病患者の resilience を高める教育

プログラム」の効果検証まで至らなかった。今後は、研究協力者の選定を継続して行い、「1 型糖尿病患者の resilience を高める教育プログラム」を実施し、その効果を検討していきたい。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 0 件）

〔学会発表〕（計 0 件）

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

○取得状況（計 0 件）

〔その他〕

ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者

高樽　由美（TAKATARU,YUMI）
高知県立大学・看護学部・助教
研究者番号：30783154